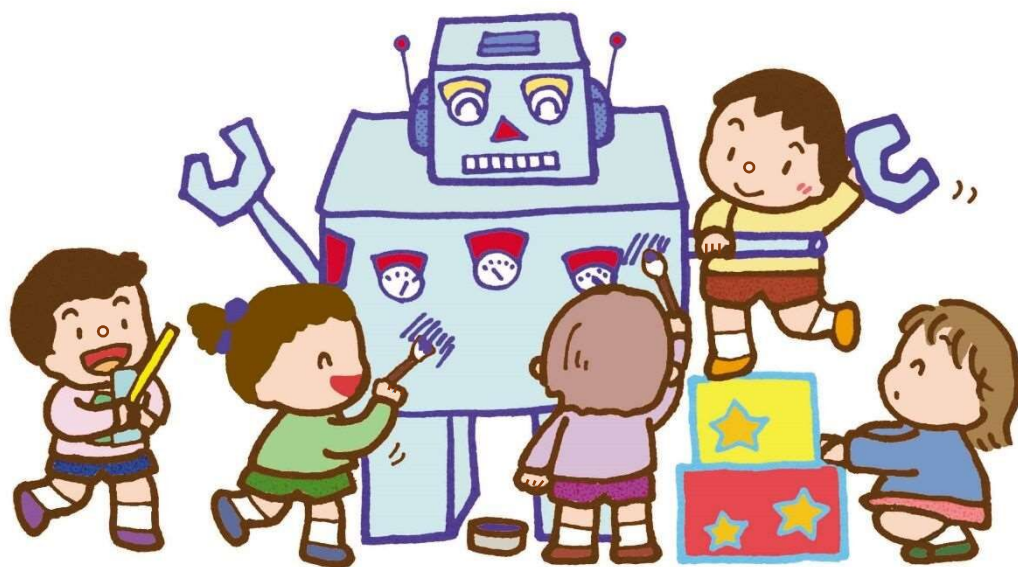


幼保小接続資料

- 実践事例
- 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
- 名古屋市教育課程 生活科
スタートカリキュラムの実践例



この資料は、リーフレット「幼児教育と小学校教育との円滑な接続に向けて」（名古屋市教育委員会 指導部指導室幼児教育支援室 令和5年2月発行）の補足資料です。リーフレットと合わせてご活用ください。

年中組の時、自分たちで種まきをして育てたスナップエンドウが年長組になった春に実った。初めての収穫では、クラスの全員が3本ずつ食べた。そして、また、たくさん実り、収穫した際、幼児からは「前よりたくさんだね」「何本ずつ食べられるかな?」「どうする?」などの思いが湧き上がってきた。

【ねらい】 身近な環境に自分から関わり、気付いたり試したり考えたりして遊びに取り入れようとする。

【環境の構成】 幼児が考えたり判断したりできるような機会を意図的に計画し、友達と一緒に考えを出し合える場や時間を確保する。

幼児の姿と教師の援助

ポイントとなる幼児の言動

幼児の姿をどう捉えるか(遊びを通した学び)

【収穫したスナップエンドウを机の上に集めた場面で】

A児「見て、こんなにいっぱい!」教師「すごいたくさんだね」

A児たちは、「1、2、・・・」と指差しして数え始めた。

周りの幼児ものぞき込んで一緒に数え始めているので、みんなで数えやすいように、教師も声を出して一緒にゆっくり数えた。

A児「61ある。いっぱい食べられそうだね」

B児「5個食べられるかな」

C児「あるか見てみよう」

A児は、スナップエンドウを5本ずつ持ち、「Aちゃんの」と机の上に置いた。続けて5本を持って「Bちゃんの」「Cちゃんの」とその横に塊のまま置いて並べ始めた。

周りの幼児も5本の塊を作ってA児に渡したり、机に置いたりした。

A児は「あと誰だっけ」と友達の名前が挙げられなくなった。

C児「先生、あお組って何人いるの」

教師「17人だよ」

B児は5本のスナップエンドウの塊を「1、2、3、・・・」と数え始めた。5本の塊が12個しかできていなかったため、「だめ、足りない」「5本は食べられない」

A児「じゃあ、3本はどうか」

B児は、スナップエンドウを3本の塊に直して、「1、2、3、・・・」と3本の塊を数え始めた。

C児は、机の上のスナップエンドウの塊を見て「これって数えたかな...。分かんなくなっちゃった」と言った。

周りの幼児たちも、どちらか分からないという様子だった。

教師は、「このトレイの上に載せていくと分かりやすいよ」とトレイを机に置いた。

C児は、「いいね。これに置いておこう」と3本ずつの塊をトレイに並べて置いていった。

並べ終わると「1、2、・・・20」

「ある、ある」と一斉に喜んだ。

E児「先生、みんな3本食べられるよ」



・収穫の手応えから、スナップエンドウの数を「いっぱい!」と感じ、その多さを数えてみたくなったのだろう。数※

「たくさんある」と喜んでいる姿に共感し、「どれぐらいあるのかな」「数えてみたいな」という幼児の追究したい気持ちに教師も応え、大きな数を通して収穫の喜びが実感できるよう、また、最後まで数えられるよう一緒に数詞を唱え、支えることにした。

・「みんな同じ数食べたい」「前は3本食べた」「前のときより多く感じる」など今までの収穫と比較し、3より大きい数として5を予想したのではないかな。年長児が具体的にイメージできる大きい数が5なのかもしれない。数 思 道

・自分たちの予想を実際に確かめてみようとしている。思 数 自
・塊が17個あれば、クラスのみんなの分があると考え、数え始めたのだろう。思 数 道

・クラスの人数よりスナップエンドウの塊が少なかったことから、全員が5本ずつ食べることはできないと判断したようだ。
・5よりも小さい数を予想し、「3ならいいのでは?」と見当をつけたのではないかな。言 数 思 協 道

トレイを出すことで、視覚的に分かりやすくなり、数えたいという思いが実現できるように支えた。

・3本ずつと見当をつけて、人数と物を対応させて捉え、確認しようとする。
・クラスの人数よりも塊の数の方が多いことで、クラス全員が同じ数を食べられることが分かり喜んでいる。数 自 協 道



遊びを通した学びが深まるようにする指導のポイント

ポイント1 思わず数えたいくなるような心が動く体験に出会えるようにする

自分の生活に関わりのある数量に触れる中で、数を数えてみたいという心の動きを大切にし、その結果、数を実感するような経験となるように支える。

ポイント2 考えたり試したりして思いを巡らすような場や時間を十分にとる

幼児の感じたことや考えたこと、発見や気づきなどを受け止め、予想したことをいろいろな方法で確かめて、自分たちなりに考えたり試したりする経験が十分できるようにする。

ポイント3 自分たちの思いを実現できた満足感・充実感を味わえるようにする

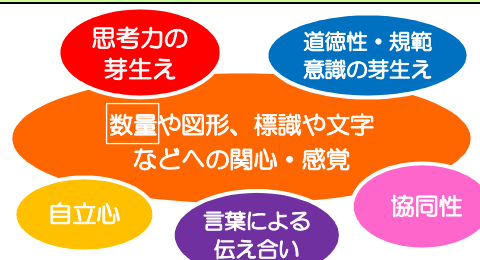
自分たちなりの目的を実現するために、「どうしたらいいかな」と試行錯誤する過程を大事にし、実現できた満足感や充実感を味わえるようにする。

幼児は、自分の生活や遊びと関連の深い数量との出会いから、数量の感覚を豊かにします。この感覚が知識の基礎として重要です。



主体的・対話的で深い学び

- 心のつながりを深めながらクラスの友達と栽培、収穫してきたからこそ、同じ数を食べたいという気持ちが高まり、そのための数え方、分け方、確かめ方などをいろいろと試そうとする。
- 仲間の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりして、試行錯誤する過程を楽しみながら、一緒に目的に向かって自分たちなりの解決を導き出そうとしている。



【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

小学校の学習にどのようにつながるのか ～算数科への接続例～

学習指導要領〔算数科〕の目標

(3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

「数学的活動の楽しさ」に気付くことについて

算数を日常の事象と結び付ける活動、具体物を扱った操作的・作業的な活動、実際の数や量の大きさを実験・実測するなどの体験的な活動、表や図、グラフなどからきまりを発見するなどの探究的な活動、解決した問題から新しい問題をつくるなどの発展的な活動等を含んだ数学的活動を通して、児童が活動の楽しさに気付くことをねらいとしている。

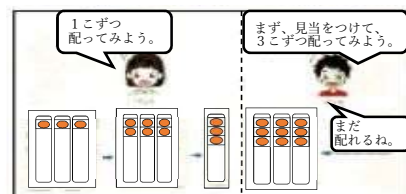
【小学校学習指導要領 解説 算数編 P22・27より】

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

思考力の芽生え

市教育課程〔算数科〕「なかまなビジョン」を基にした数学的活動への接続例

自分の考えをもつ	2 12個のいちごを、3人に同じ数ずつ分けたときの、1人分の個数を考える。 (1) ブロックを使って1人分の個数を考える。 1こずつ配ってみよう。 まず、見当を付けて3こずつ配ってみよう。まだ配れるね。	具体物、図、数、式、表、グラフなどを用いて表すことが大切である。本時では、いちごを皿に分ける活動を、ブロックを使って考えさせるとよい。
なかまと対話する	(2) 考えたことを共有する。 1こずつ配ると、1人分は4こになります。 まず、3こずつ配ります。まだ配れるから、残りを1こずつ配って、1人分は4こになります。	・ブロックと教科書P.19のお皿を使って、同じ数ずつ分けると、1人分は何個になるのかを操作して考えさせる。 ・何人かの児童に、全体で共有したい考えを取り上げ、その考えを複数の児童に具体物、図、数、式、表、グラフなどを用いて説明させることが大切である。本時では、他の児童の考えを、ブロックを使って同様に操作させることで、考えを共有させたい。



プラネタリウムを見学した翌日、A児がプラネタリウムの絵を家庭で描いてきて「こんなのを作ろう」と、B児とC児を誘った。前年度、年長児のプラネタリウムごっこで遊んだことが心に残っていたのかもしれない。遊戯室で大型積み木を積んで壁のように囲って枠組を作り、黒いケント紙を何枚も貼り合わせ、苦労して枠組の上に屋根のように載せたあと、どのようにするとプラネタリウムの星のようになるかを考え始めた。

- 【ね ら い】 友達とイメージを共有し、自分なりに考えたり友達と考えを出し合ったりし、自分たちのしたいことが実現するうれしさや、友達と遊びを進める楽しさを味わう。
- 【環境の構成】 ・ 自分なりに考えたり、友達と思いや考えを出し合ったりすることができるような時間を保障する。
・ 思い付いたことをすぐに試することができるように、材料や用具を幼児が自由に出し入れできるところに置く。

幼児の姿と教師の援助

ポイントとなる幼児の言動

幼児の姿をどう捉えるか（遊びを通した学び）

A児「星さあ、黄色のペンで描いたらいいんじゃないかな」

B児「黄色いテープを貼るっていうのはどうかな…」

C児「いいねえ。どっちも試してみよう」



そう言って、黄色の油性ペンと黄色のビニルテープを持ってきて、点々を描いたり、テープを貼ったりし始めた。

教師「お星様は見えなかしら」 3人「全然見えない」

教師「そっか…。どうしよう…」

A児「あっ、キラキラテープを貼るのはどうかな」

B児「星ってキラキラだもんね」

教師「うん、キラキラだものね。試してみよう」と言葉を掛けた。

C児「そうだね。試してみよう」と、金色の粘着性メタリックテープを貼ってみると…



A児「さっきよりは見えるかもしれないけど…」

B児「ああ、確かに…」 C児「どうしよう…」

貼ったり描いたりする方法では、3人のイメージに近付けることは難しいだろうと思い、言葉を掛けた。

教師「プラネタリウムのお星様って、星の形をしてたっけ…」

A児「違う、丸い大きいのと小さいのとかな」

教師「そっか…。丸い点々がいっぱい見えたらいいのかな」

A児「あ、七夕（製作）で穴をあけたやつはどうかな」

教師「なるほどね。試していいかなって、二人に聞いてみよう」

A児「あのね、七夕で使ったやつで穴をあけるのはどうかな」

B児「いいね、いいね」 C児「やってみようよ」

3人は教師と一緒に目打ちを1本取りに行き、A児がケント紙に試しに穴をあけ始めた。



穴から光が差し込むと、

A児・B児「そう、これこれ」

C児「これが いっぱいあったら本物みたいだ」

B児「そうだね」

C児「もっとあけよう」

教師は、3人のわくわく感に共感しながらそばで見守った。

- ・ 表したいことに必要な用具、材料を選択し、目的に応じて使い方を考えようとする。
- ・ 星を表現しようと、今までの経験から考えたことを友達と伝え合い、確かめようとしている。

自 思 言 協 感

- ・ 予想との違いに気づき、納得して次の予想を立てようとしている。
- ・ 「キラキラ」という言葉の響きから、予想を立て、確かめようとする。

自 思 言 協 感

- ・ 見えないわけではないことから、「さっきよりは」と比べて捉えようとしている。
- ・ 友達の気づきに共感し、納得している。

思 言 協

- ・ 教師の星の形を意識させる言葉をきっかけに、色や輝きから形や大きさへ、さらには穴を通した光など、見方を変えようとし、それに合った用具を選ぼうとしている。

思 数 言

- ・ 先行体験を生かそうとする。
- ・ 友達も同意してくれ、ますます自信をもって試したくなる。
- ・ 目的を共有する。

自 社 言 協

- ・ イメージ通りに光が穴から差し込み、星のように見えることに感動している。その感動を友達と喜び合い、実現したイメージを共有している。そして、たくさん穴をあけ、より本物らしくプラネタリウムを作ろうとしている。

協 自 健

遊びを通した学びが深まるようにする指導のポイント

ポイント1 友達とイメージを共有して遊ぶことができるようにする

幼児があんな風にしてみたいと憧れたり、心を揺さぶられたりするような体験を友達と一緒にできる機会を園生活に取り入れていくこと、一緒にやってみようと思える友達との関係性があることが重要である。

ポイント2 自分なりに考えようとしたり、友達と考えを出し合ったりすることができるよう、教師も仲間となって考える方向性を示す

イメージしたことを実現するために考えたり、友達に伝えたりする時間を保障すること、幼児が主体となって遊びを進めようとする姿を見守る姿勢が大切である。また、幼児や状況に応じて、考えを引き出す、発言を促すなどの関わりをすることも大事にしたい。

ポイント3 思い描いたことや感覚的に捉えたことを、実際に表現できるうれしさを感じられるように支える

日頃から、幼児が自由に扱える材料や用具が身近にあること、思い付いたり考えたりしたことをやってもいいと思える雰囲気があることが大切である。そして、その幼児のしたいことが実現するまで支え、見届けることが必要である。

幼児は心が動く体験をすると、「あんな風にしてみたい」といろいろと考えたり、先行体験を生かしたりして表現しようとする。

その実現に向かう過程こそが学びそのものであり、諸感覚を通した体験と体験が関連性をもつことにより学びが深いものになって、幼児の生活が充実していくことにつながります。



主体的・対話的で深い学び

- 憧れや自分たちの遊びを面白くしたいという気持ちが原動力となり、考えたことやイメージしたことを実現するために、先行体験を生かして、より適切なものを見付けようとする。
- 友達と思いや考えを伝え合う中で試してみても納得したり、さらにイメージをもって工夫したりする。
- 目的に向かって試行錯誤を繰り返し、イメージしたことを実現したことで、探究する面白さ、友達と考えを出し合いながら遊びを進める楽しさ、諦めずに粘り強く取り組むことの大切さを体感している。



【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

小学校の学習にどのようにつながるのか ～図画工作科への接続例～

学習指導要領〔図画工作科〕の内容への接続例

「造形遊びをする」活動

児童が材料などに進んで働きかけ、自分の感覚や行為を通して捉えた形や色などからイメージをもち、思いのままに発想や構想を繰り返し、技能を働かせてつくることである。学習活動としては、想像したことをかく、使うものをつくるなどの主題や内容をあらかじめ決めるものではなく、児童が材料や場所、空間などと出会い、それらに関わるなどして、自分で目的を見付けて発展させていくことになる。

- 児童が自ら材料や場所などに働きかけ、そこから発想していく。
- 児童が、つくる過程そのものを楽しむ中で「つくり、つくりかえ、つくる」という、学びの過程を経験している。 【小学校学習指導要領 解説 図画工作編 P26より】

市教育課程〔図画工作科〕第1・2学年の内容（指導事項）

A表現(1) 思考力、判断力、表現力等

ア 造形遊びをする活動を通して、身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付くことや、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えること。

A表現(2) 技能

ア 造形遊びをする活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分慣れるとともに、並べたり、つないだり、積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくること。

【小学校学習指導要領 解説 図画工作編 P39・44、及び市教育課程 図画工作科（1年）P2より】

豊かな感性と表現

思考力の芽生え

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

	項目	幼稚園教育要領の内容	幼稚園教育要領解説に示された 小学校につながる姿
1 	健康な心と体	幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。	小学校生活において、時間割を含めた生活の流れが分かるようになると、次の活動を考えて準備をしたりするなどの見通しをもって行動したり、安全に気を付けて登下校しようとしたりする姿につながる。 また、自ら体を動かして遊ぶ楽しさは、小学校の学習における運動遊びや、休み時間などに他の児童と一緒に楽しく過ごすことにつながり、様々な活動を十分に楽しんだ経験は、小学校生活の様々な場面において伸び伸びと行動する力を育んでいく。
2 	自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。	小学校生活において、自分でできることは自分でしようと積極的に取り組む姿や、生活や学習での課題を自分のこととして受け止めて意欲的に取り組む姿、自分なりに考えて意見を言ったり、分からないことや難しいことは、教師や友達に聞きながら粘り強く取り組んだりする姿など、日々の生活が楽しく充実することにつながっていく。
3 	協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。	小学校における学級での集団生活の中で、目的に向かって自分の力を発揮しながら友達と協力し、様々な意見を交わす中で新しい考えを生み出しながら工夫して取り組んだりするなど、教師や友達と協力して生活したり学び合ったりする姿につながっていく。
4 	道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。 また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。	小学校生活において、初めて出会う人の中で、幼児期の経験を土台にして、相手の気持ちを考えたり、自分の振る舞いを振り返ったりなどしながら、気持ちや行動を自律的に調整し、学校生活を楽しくしていこうとする姿へとつながっていく。
5 	社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。 また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。	小学校生活において、相手の状況や気持ちを考えながらいろいろな人と関わることを楽しんだり、関心のあることについての情報に気付いて積極的に取り入れたりする姿につながる。 また、地域の行事や様々な文化に触れることを楽しんで興味や関心を深めることは、地域への親しみや地域の中での学びの場を広げていくことにつながっていく。
6 	思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりする	小学校生活で出会う新しい環境や教科等の学習に興味や関心をもって主体的に関わることにつながる。

		など、多様な関わりを楽しむようになる。 また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。	また、探究心をもって考えたり試したりする経験は、主体的に問題を解決する態度へとつながっていく。
7 生	自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。 また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。	小学校の生活や学習において、自然の事物や現象について関心をもち、その理解を確かなものにしていく基礎となる。 さらに、実感を伴って生命の大切さを知ることは、生命あるものを大切にし、生きることのすばらしさについて考えを深めることにつながっていく。
8 数	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。	小学校の学習に関心をもって取り組み、実感を伴った理解につながるとともに、学んだことを日常生活の中で活用する態度にもなるものである。
9 言	言葉による伝え合い	先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。	小学校の生活や学習において、友達と互いの思いや考えを伝え、受け止めたり、認め合ったりしながら一緒に活動する姿や、自分の伝えたい目的や相手の状況などに応じて言葉を選んで伝えようとする姿などにつながっていく。 特に、戸惑いが多い入学時に自分の思いや考えを言葉で表せることは、初めて出会う教師や友達と新たな人間関係を築く上でも大きな助けとなる。
10 感	豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。	小学校の学習において感性を働かせ、表現することを楽しむ姿につながる。これらは、音楽や造形、身体等による表現の基礎となるだけでなく、自分の気持ちや考えを一番適切に表現する方法を選ぶなど、小学校以降の学習全般の素地になる。 また、臆することなく自信をもって表現することは、教科等の学習だけではなく、小学校生活を意欲的に進める基盤ともなっていく。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の10項目の読み取り方

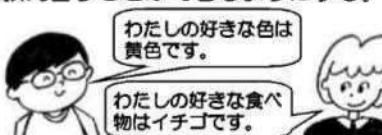
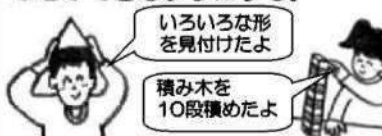
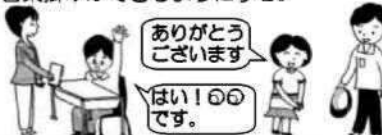
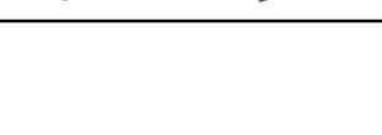
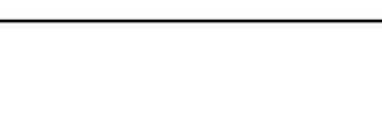
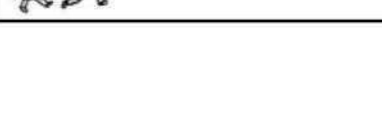
文頭「〇〇の中で」:

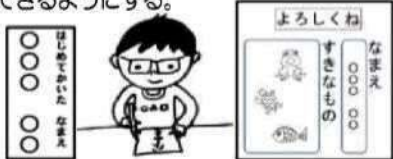
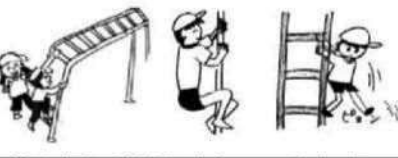
幼稚園教育の基本を逸脱するような早期教育や小学校教育の前倒しの活動ではなく、園で行われる自発的な活動としての遊びや生活の中で学ぶこと。（「環境を通して行う教育」）

文末「〇〇ようになる」:

「できるようにさせる」という到達目標ではなく、「〇〇ようになる」過程を重視していること。

その過程で、幼児が感じたり、楽しんだり、気付いたり、考えたり、葛藤したり、乗り越えたりする体験が次の体験につながるようにすること。

	1 時間目	2 時間目	3 時間目
一日目	対面式（1年生を迎える会） 行 又は学 異学年の友達や教師について知るとともに、入学の喜びを再度実感できるようにする。 	ともだちのこじりしたいな ・なかよしのき ・すきなかたちや いろんなに ・すきなもの すきなこと 挿絵を基に、友達と仲良くしたいという気持ちを持ち、好きなものを教え合うことができるようにする。 	かえりのやくそくをしよう ・がっこうの1にち ・あんぜんなとう下校について かんがえよう（準備・軌て） 靴箱や傘立ての正しい使い方や安全な登下校の仕方について知ることができるようにする。 
	ともだちたくさんつくりよう ・なかよしのき ・わくわくすることがいっぱいだよ ・どんなうたがあるかな 挿絵を基に、友達と仲良くしたいという気持ちを持ち、幼児期に経験した遊び歌などで楽しむことができるようにする。 	がっこうのことにくわしくなろう ・がっこうの1にち ・学習の準備をしよう ・学校のきまりをしよう（机・ロッカー） トイレやロッカーの使い方、用具等のしまい方、提出物の出し方を知ることができるようにする。 	かえりのやくそくをしよう ・たのしいがっこう ・学校のきまりをしよう（帰りの支度） ・あんぜんなとう下校についてかんがえよう 帰りの支度の仕方について知り、きまりを守って下校することができるようにする。 
二日目	ともだちたくさんつくりよう ・なかよしのき ・1年生になって ・どんなうたがあるかな 挿絵を基に、友達と仲良くしたいという気持ちを持ち、幼児期に経験した歌やじゃんけん列車などで楽しむことができるようにする。 	たのしいね そとでのあそび ・学習の準備をしよう ・たのしいがっこう ・体ほぐしの運動遊び 着替えや集合・整列の仕方を知り、体づくり運動などに取り組むことで外遊びの仕方を知ることができるようにする。 	かたちやかずをみつけたよ ・がっこうとなかよし ・あそびがつながるうれしいな 折り紙遊びや積み木遊びなどをしていろいろな形や数を見付けることができるようにする。 
	ともだちたくさんつくりよう ・なかよしのき ・がっこうの1にち ・どんなうたがあるかな 挿絵を基に、友達と仲良くしたいという気持ちを持ち、幼児期に経験した歌やじゃんけん列車などで楽しむことができるようにする。 	がっこうのいちにち ・たのしいいちにち ・たのしいがっこう 学校生活の様々な場面の挿絵を基に、場面に合わせた言葉を考え、適切な挨拶や言葉掛けができるようにする。 	たのしいね そとでのあそび ・学習の準備をしよう ・固定施設を使った運動遊び 遊具遊びに取り組むことで運動場の正しい使い方を知ることができるようにする。 
四日目	がっこうのいちにち ・たのしいいちにち ・たのしいがっこう 学校生活の様々な場面の挿絵を基に、場面に合わせた言葉を考え、適切な挨拶や言葉掛けができるようにする。 	たのしいね あめのひのあそび ・学校のきまりを知ろう ・ともだちとなかよし ・たのしいがっこう 雨の日の休み時間の過ごし方について考え、室内でどのように遊べばよいかを知ることができるようにする。 	ともだちたくさんつくりよう ・なかよしのき ・がっこうの1にち ・どんなうたがあるかな 挿絵を基に、友達と仲良くしたいという気持ちを持ち、幼児期に経験した歌やじゃんけん列車などで楽しむことができるようにする。 
	がっこうのいちにち ・たのしいいちにち ・たのしいがっこう 学校生活の様々な場面の挿絵を基に、場面に合わせた言葉を考え、適切な挨拶や言葉掛けができるようにする。 	たのしいね あめのひのあそび ・学校のきまりを知ろう ・ともだちとなかよし ・たのしいがっこう 雨の日の休み時間の過ごし方について考え、室内でどのように遊べばよいかを知ることができるようにする。 	ともだちたくさんつくりよう ・なかよしのき ・がっこうの1にち ・どんなうたがあるかな 挿絵を基に、友達と仲良くしたいという気持ちを持ち、幼児期に経験した歌やじゃんけん列車などで楽しむことができるようにする。 
五日目	がっこうのいちにち ・たのしいいちにち ・たのしいがっこう 学校生活の様々な場面の挿絵を基に、場面に合わせた言葉を考え、適切な挨拶や言葉掛けができるようにする。 	たのしいね あめのひのあそび ・学校のきまりを知ろう ・ともだちとなかよし ・たのしいがっこう 雨の日の休み時間の過ごし方について考え、室内でどのように遊べばよいかを知ることができるようにする。 	ともだちたくさんつくりよう ・なかよしのき ・がっこうの1にち ・どんなうたがあるかな 挿絵を基に、友達と仲良くしたいという気持ちを持ち、幼児期に経験した歌やじゃんけん列車などで楽しむことができるようにする。 

六日目	ともだちのこしりしたいな		ほけんしつたんけん		ともだちたくさんつくろう	
	・わたしのなまえ ・すきなかたちや いろいろな	国 図	・がっこうとなかよし ・1年生になって (保健室の使い方)	生 学	・なかよしのき ・がっこうの1にち ・どんなうたがあるかな	国 生 音
	自分の名前と好きなものをカードにかき 仲間づくりを行うための名刺を作ることが できるようにする。		保健室に探検に行き、けがや体の話を聞い たり、身体測定をしったりすることで、保健室 の役割を知ることができるようにする。		挿絵を基に友達と仲良くしたいという気持ち をもち、幼児期に経験した歌やじゃんけん 列車などで楽しむことができるようにする。	
						
七日目	ともだちのこしりしたいな		としよしつたんけん		からだつくりとゆうぐ・てつぼう	
	・わたしのなまえ ・ともだちとなかよし	国 生	・がっこうとなかよし ・おはなしたくさんきき たいな	生 国	・体ほぐしの運動遊び ・固定施設を使った遊具 遊び	体
	自分の名前と好きなものをかいたカード にサインをもらいながら、仲間づくり を行うことができるようにする。		図書室に探検に行き、読み聞かせを聞いて、読書の楽しさを知 ることができるようにする。		器械・器具を使った運動遊びに 進んで取り組み、運動の行い方を知 ることができるようにする。	
						
八日目	こくごのがくしゅうがはじまるよ		もっとがっこうのことがしりしたいな		どんなかづがかくれているかな	
	・かいてみよう ・おはなしたくさんきき たいな	国 国	・こえのおおきさどれくらい ・きもちのよいあいさつ ・がっこうとなかよし	国 道 生	・あそびがつながるうれしいな ・がっこうとなかよし	算 生
	字を書くときの姿勢と鉛筆の持ち方を知り、運 筆練習をするともに、読み聞かせを聞いて、 読書の楽しさを知ることができるようにする。		場面による声の大きさや挨拶 について知り、学校探検を行う ことができるようにする。		学校探検では、数字見付けをしたり、 物の数などを数えたりして、数に親しみ をもつことができるようにする。	
						
九日目	かいてみよう		さんすうのがくしゅうがはじまるよ		きゅうしよく・そうじがはじまるよ	
	・かいてみよう ・おはなしたくさんききたいな	国 国	・ときどきがっこう	算	・給食当番の仕方 ・掃除当番の仕方	学 学
	1画または2画で構成された易 しい平仮名をゆっくりと丁寧に書 くことができるようにする。		挿絵を基に、亀や魚などのものの種類に ついて話し合い、同じ種類のものの集まり に着目することができるようにする。		給食当番や掃除当番が始まることに 期待感をもち、正しい当番活動の手順 を覚えることができるようにする。	
						
十日目	かいてみよう		かぞえてみよう		おんがくしつたんけん	
	・かいてみよう ・おはなしたくさんききたいな	国 国	・ときどきがっこう	算	・がっこうとなかよし ・おんがくにあわせて	生 音
	言葉を読んだり、挿絵と言葉を対 応させたりして平仮名を練習するこ とができるようにする。		同じ種類を囲んでもものの集まりに着目したり 絵を1つずつ線で結ぶことで、1対1に対応付 けたりすることができるようにする。		音楽室に探検に行き、音楽に合わせて体を動かす ことで音楽に親しんだり、音楽室にあるいろいろな 楽器に気付いたりすることができるようにする。	
			